

教授

熊木 俊朗

KUMAKI, Toshiaki

## 1. 略歴

1990年3月	北海道大学文学部文学科言語学専攻課程卒業
1990年4月	旭化成工業株式会社入社
1994年3月	明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程修了
1996年4月	東京大学文学部助手（附属常呂実習施設勤務）
2004年4月	北海道常呂町教育委員会社会教育課ところ遺跡の森主幹
2005年2月	博士（文学）学位取得 東京大学大学院人文社会系研究科
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2018年11月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

北東アジア考古学

### b 研究課題

北東アジア地域の考古学的研究を専門としており、特に近年は以下の3点を主要な課題として、北海道でのフィールドワークを中心とした調査研究を行っている。

- (1) アイヌ文化成立過程の考古学的研究
- (2) 日本列島とアジア大陸の「北回りの交流」に関する研究
- (3) 東北アジアにおける「窪みで残る竪穴群遺跡」に関する研究

### c 概要と自己評価

上記研究課題について、2020年度～2021年度には以下の研究をおこなった。

#### 1) 北見市大島遺跡群の発掘調査

北見市大島遺跡群は、擦文文化の竪穴住居等からなる集落遺跡である。アイヌ文化の直接の母体になったと考えられる擦文文化の終末過程や、擦文文化とオホーツク文化の関係について解明するため、北見市大島2遺跡の発掘調査を実施した。この調査は2010年度から継続して実施しており、2013年度までの調査成果については報告書を刊行済みであったが、2020年度には、2014年度から2018年度までの調査成果に基づく二冊目の報告書を刊行した。また、2020年度から2021年度に実施した発掘調査では、大島2遺跡で竪穴住居跡1軒を発掘し、竪穴住居跡の分布や内部の構造、出土遺物、住居の廃絶儀礼等について知見を得た。大島2遺跡については、2022年度まで調査を継続し、その後総括報告書を公開する予定である。

#### 2) オホーツク文化の研究と特別展による成果の公開

本研究科と常呂実習施設が、開催館と共に主催した巡回特別展『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』（横浜ユーラシア文化館：2021.10.16-12.26、大阪府立近つ飛鳥博物館：2022.1.15-3.13）と関連して、地方自治体（稚内市、礼文町、利尻町、枝幸町、網走市、斜里町、根室市等）や北海道大学が所蔵するオホーツク文化の資料調査をおこなひ、特に網走市モヨロ貝塚における過去の発掘調査の内容や、オホーツク文化の動物意匠遺物について新たな知見を得た。それらの成果は、開催された特別展とその図録に組み込む形で公開した。

### d 主要業績

#### (1) 論文

福田正宏・カブリルチュク M・夏木大吾・國木田大・張恩恵・ゴルシュコフ M・森先一貴・佐藤宏之・熊木俊朗、「ユダヤ自治州新石器時代ビジャン4遺跡出土の新資料」、『東京大学考古学研究室研究紀要』、34、107-130頁、2021.3

#### (2) 解説

熊木俊朗、「オホーツク文化とは何か」、『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』、4-7頁、2021.10

熊木俊朗、「集落と住居」、『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』、10-13頁、2021.10

熊木俊朗、「コラム 住居の廃絶と建て替え」、『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』、14頁、2021.10

熊木俊朗、「生活の道具 木器」、『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』、15-17頁、2021.10

熊木俊朗、「オホーツク文化の成立 オホーツク文化の展開 オホーツク文化の地域化 擦文文化への同化 オホーツク文化の広がり（サハリン）」、『オホーツク文化 ―あなたの知らない古代―』、42-52頁、2021.10

熊木俊朗、「コラム オホーツク文化研究略史」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、54 頁、2021.10  
熊木俊朗、「遺跡紹介 北見市 栄浦第二遺跡」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、55 頁、2021.10  
熊木俊朗、「遺跡紹介 北見市 トコロチャシ跡遺跡」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、57 頁、2021.10  
熊木俊朗、「墓」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、68-73 頁、2021.10  
熊木俊朗、「大陸系・本州系遺物」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、102-108 頁、2021.10  
熊木俊朗、「東京大学と北海文化研究」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、112-113 頁、2021.10  
熊木俊朗、「オホーツク文化は何をもたらしたのか」、『オホーツク文化 —あなたの知らない古代—』、114-115 頁、  
2021.10

(3) 学会発表

国内、熊木俊朗、「オホーツク文化の集落」、北海道考古学会 2020 年度研究大会、2020.5.16

(4) 啓蒙

熊木俊朗、「東京大学考古学研究室の考古学実習」、『考古学ジャーナル』、No.752、21-22 頁、2021.4

(5) 研究報告書

熊木俊朗編、『アイヌ文化形成史上の画期における文化接触：擦文文化とオホーツク文化 —大島 2 遺跡の研究 (2) —』、2021.3

萩野はな・福田正宏・國木田大・斉藤譲一・夏木大吾・熊木俊朗、「稚内市立大岬小学校関連資料の報告」、『東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界 (III)』77-100 頁、2022.2

内田和典・シェフコムード I. Ya.・森先一貴・國木田大・福田正宏・張恩恵・佐藤宏之・大貫静夫・熊木俊朗・ゴルシユコフ M. V.・コシツウナ S. F.、「マラヤガバニ遺跡 2008 年度発掘調査 II d 層 —コンドン文化の検討—」、『東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界 (III)』101-121 頁、2022.2

(6) マスコミ

「オホーツク文化 あなたの知らない古代 1 「続縄文」「擦文」という時代の中で」、『毎日新聞 (神奈川版) 朝刊』、2021.11.6

「オホーツク文化 あなたの知らない古代 3 大型竪穴住居 複数家族が同居」、『毎日新聞 (神奈川版) 朝刊』、2021.11.20

「オホーツク文化 あなたの知らない古代 5 海峡超え北、南から製品入手」、『毎日新聞 (神奈川版) 朝刊』、2021.12.4

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、北見工業大学、「オホーツクと環境」、2020.6、2021.6

(2) 学会

国内、日本考古学協会、埋蔵文化財保護対策委員、2020.4~2022.3

国内、北海道考古学会、会誌編集委員会委員長、2021.4~2022.3

(3) 行政

斜里町教育委員会、教育政策、斜里町遺跡調査活用検討委員会委員、2020.2~2022.2

北見市教育委員会、教育政策、文化財審議委員会委員、2020.4~2021.3、史跡常呂遺跡整備専門委員、2020.12~2022.12、  
常呂地区社会教育推進会議委員、2021.4~2022.3

北海道教育委員会、教育政策、北海道常呂高等学校学校運営協議会委員、2020.5~2022.5、北海道文化財保護審議会委員、2020.7~2022.6

湧別町教育委員会、教育政策、湧別町シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会委員、2021.5~2022.3

(4) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見、運営協力委員会委員、2020.6~2022.3

一般財団法人北方文化振興協会、理事、2021.5~